

映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2023」



会 期：2023年11月27日(月)～29日(水)
 会 場：表彰式：国立新美術館講堂 上映会：ユーロライブ
 主 催：(公社)映像文化製作者連盟
 後 援：文部科学省／経済産業省／東京都／(特非)映像産業振興機構／(一社)日本映画テレビ技術協会／
 (一社)日本アド・コンテンツ制作協会／(一社)日本ポストプロダクション協会／日本映画撮影監督協会／
 日本映画テレビ照明協会／(一社)デジタルコンテンツ協会／(株)毎日新聞社／(株)日本経済新聞社／(株)朝日新聞社／
 (株)読売新聞東京本社／(株)映像新聞社／(有)ユニコム社
 対 象：一般、学生、映像制作関係者
 公式サイト URL：<http://www.eibunren.or.jp/award2023/index.html>

総来場者数(参加数)：約900人 ※ライブ配信視聴者含む
 内 訳：(国内入場者数(参加数)：900人 海外入場者数(参加数)： 人)
 プレス社数：3社
 内 訳：(国内プレス社数：3社 海外プレス社数： 社)

■開催内容

17回を迎えた、わが国唯一の産業・文化関連の短編映像祭「映文連アワード2023」表彰式は、11月27日(月)午後1時30分
 から国立新美術館講堂において開催し、最優秀作品賞(グランプリ)を始め、32作品に賞状とトロフィーを授与した。

「映文連アワード2023」受賞作品上映会は、28日(火)・29日(水)に渋谷・ユーロライブにおいて開催し、全受賞作品32本
 を6プログラム(「わたしたちは、作りつづける。」、「時代をつなぐ」、「コーポレート映像の現在」、「想いをつなぐ」、「自由と人権
 を考える」、「若手クリエイターの映像表現」)に分けて上映。トークセッションも開催。また、映文連創立70周年企画も実施した。

28日夜は、「International Corporate Film Showing 2023」を開催し、World Media Festival、Cannes Corporate Media & TV
 Awards、US International Awards、AUTOVISION Awards等の受賞映像19作品を上映した。プロデューサー等関係者のビデオ
 メッセージを3本上映したことや、映像祭の関係者や上映作品の制作者などが来日ゲストとして登場し、充実した内容となった。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

2023年度は映文連創立70周年にあたる年だったことより、入場無料企画として、過去の名作上映や連盟の歴史を追った新作
 映像を上映するコーナーを設けた。29日は、「映文連70周年記念映像 わたしたちは、作りつづける。」(製作：映文連、2023年)、「煤
 煙の街の子どもたち」(製作：東映、1956年)、「彫る 棟方志功の世界」(製作：毎日映画社、1975年)を上映。30日は、「映文
 連70周年記念映像 わたしたちは、作りつづける。」、「生命誕生」(製作：東京シネマ、1963年)、「青函トンネル 総集編 -本
 州側工事の記録-」(製作：鹿島映画、1985年)を上映した。

また、コロナ禍ではじめて表彰式の模様を、日経チャンネル(<https://channel.nikkei.co.jp/>)で取材してもらい、ライブ配信す
 る企画を引き続き実施した。今後も当面アーカイブをしてもらい、視聴機会及び認知向上を図る。



最優秀作品賞(グランプリ)表彰



上映会会場



トークセッション



受賞者集合写真



受賞者集合写真